

10 クラス開講



2016年度 新規開講

大学と地域

1 年次必修科目(共通教育)



「大学と地域」への招待

鹿児島大学へのご入学、おめでとうございます。鹿児島大学は地域の知の拠点として、本学で学ぶ学生の皆さんが鹿児島について知り、考え、活動する機会の充実を進めています。

皆さんの中には、鹿児島県内の出身者も、他県の出身者もいると思います。ただ、県内出身者が鹿児島について十分に把握しているわけではありませんし、他県出身者だからといって鹿児島のことを全く知らないわけでもないでしょう。

ここで紹介する「大学と地域」は、鹿児島大学が進める地域との協働の核となる科目です。この授業では、鹿児島の特徴と鹿児島大学の知の双方に深く関わる10のテーマについて、大学と地域とがどのように関わり合い、支え合っているかを学びます。その学修を通じて、大学で学ぶための基礎をしっかりと固めるとともに、鹿児島の現状や課題を知り、鹿児島の素晴らしさを堪能してください。そして、県内出身者も県外出身者も、それぞれの出身地域のことを考える視点を改めて培っていただければ幸いです。

「大学と地域」が、これからの学生生活で何を学び、どのような能力を高めていくかについて考える機会となることを期待しています。



学長 前田 芳實

防災



今日、桜島は噴火しましたか？ 鹿児島県民にとっては日常の風景となっている桜島の噴火は、他県から見れば大きな災害としてニュースになります。また、豪雨などによる土砂災害や原子力発電所のリスクも、鹿児島では身近な問題として捉え、いざというときに対応できるよう準備しておくことが必要でしょう。『防災』クラスでは、鹿児島の災害の特徴を知り、防災の備えをどうしたらいいかについて検討します。

動物・畜産業



動物というと何をイメージしますか？ ペットを飼っている人にとっては、イヌやネコなどの小動物でしょうか。一方、野生動物による被害に悩んでいる人は、イノシシなどが思い浮かぶかもしれません。また、畜産業を営む人にとっては飼っているウシやブタが身近な動物です。鹿児島は温暖な気候に恵まれた畜産県です。私たちと動物とのかかわりについて、『動物・畜産業』クラスで一緒に考えてみませんか。

環境・島嶼



環境問題という言葉はよく耳にしますが、その具体的な中身は何で、自分にどう関係しているのかについて考えたことはありますか？ 私たちを取り巻く環境をより良い形で維持・発展させていくために、私たちには何ができるでしょうか。鹿児島は離島人口・離島面積ともに全国1位の離島県です。独自の自然や文化など魅力あふれる島を堪能しながら、『環境・島嶼』クラスで環境問題への様々なアプローチの仕方を学びましょう。

農業



私たちは毎日何かを食べて生活していますが、例えば、昨日食べたさつまいもがどのように作られているか知っていますか？ 安心・安全な食べ物を生み出すために、どのような努力がなされているかを考えたことはありますか？ 実際に携わっていないと遠いことのように思うかもしれませんが、農業は私たちの生に直結するとても重要な課題です。『農業』クラスでは、食糧基地・鹿児島をめぐる様々な課題に触れながら、農業について考えを深めていきます。

エネルギー



「省エネ」や「エコ」といった言葉は、皆さんにとっては当たり前の考えかもしれませんが、では、そもそもエネルギーがどのように作られているかを知っていますか？ 石油などの資源が乏しい我が国では長年エネルギー自給が大きな問題でしたが、先進的な研究の成果から、再生可能エネルギーや次世代エネルギーの開発が急速に進んでいます。この機会に、『エネルギー』クラスで身近なエネルギーの現状について一緒に考えていきましょう。

鹿児島大学は「地域とともに歩む大学」として、地域に貢献する思いや能力を育む教育に取り組んでいます。この取り組みの教育上の核となる授業が「大学と地域」です。

この授業の目的は鹿児島のことを単に「知る」ことではありません。大学に入学した皆さんが、「大学」の名にふさわしい教育を受け、それを身に付けるためには、「自ら論理的に思考する力」や「多くの情報から重要なものを探し出す力」、「物事の課題を発見しそれを合理的に解決する力」などが必要です。この授業では、地域という教材を通して、そのような力を養成することを目指しています。

「大学と地域」は全学必修科目です。1年次に必ず履修してください。

- ・ 法文学部、理学部、工学部の学生は前期に履修してください（火曜・4限）。
- ・ 教育学部、農学部、水産学部、医学部、歯学部、共同獣医学部の学生は後期に履修してください（金曜・5限）。

10クラス（10テーマ）から受講を希望するクラスを選択してください。

- ・ 各クラスの内容はこのパンフレット及びシラバスで確認してください。
- ・ 各クラスの定員は100名程度で、希望者が定員を超過した場合は抽選となります。
- ・ 抽選に漏れた場合は速やかに他のクラスの履修登録をしてください。
- ・ なるべく自分の所属する学部の専門とは異なるテーマのクラスを受講してください。

鹿児島は海に囲まれ、離島も多く、さまざまな魚が獲れます。皆さんは1か月にどれくらい魚を食べますか？水産業という身近には感じられない人が多いかもしれません。ですが、昨日晩ご飯に使ったかつおぶしも、さっき食べたパスタのツナも、もともとは魚ですね。私たちの身近に魚はいるのです。そうした魚たちがどうやって私たちの食卓へやってくるのか、そこまでの過程には今、どんな問題があるのか。この機会に『水産業』クラスで学んでみませんか。



教育にとって、その地域の実情を踏まえることは必須の課題です。鹿児島県には離島、半島、山間部、都市部など多種多様な地域があります。それぞれの良さを生かしつつ、特有の問題にも対応しなければなりません。そうした地域の長所や課題は、子どもに対する教育だけでなく、大人も含めた地域住民全体の生活にも関係しています。『まちおこし・教育』クラスでは、地域をより良くするものとしての「教育」と「まちおこし」をキーワードにしながら学習を進めます。



住宅用の木材など、私たちの身近なところで使われている木がどのように育てられ、活用されているか、考えたことがありますか？都市部で生活していると森林や林業について身近には感じにくいかもしれませんが、私たちの暮らしはいろいろな場面で木に支えられています。では、それは具体的にどんな場面でしょうか。『森林・林業』クラスでは木にまつわる様々な視点から、私たちの暮らしについて考えていきます。



「BIRD'S EYE VIEW OF KAGOSHIMA」を知っていますか？鹿児島には魅力的な観光資源がたくさんあります。でも、資源があれば勝手に観光客が押し寄せてくれるわけではありません。観光客に来てもらうためには戦略や具体的な対応策が必要です。また、観光客を受け入れる一方、私たちが生活する場としての「まち」をどのように作っていくかもとても重要な視点です。鹿児島の魅力を知りつつ、その課題について『まちづくり・観光』クラスで一緒に考察してみましよう。



失わないと分からない大切なものの1つが健康だと言われています。健康を維持するために何が必要か。もしも健康でいられなくなったらどうしたらいいか。特に、4月から1人暮らしを始めた人にとってはとても重要な課題ですね。離島が多く、火山の噴火などの災害も想定される鹿児島の医療をめぐって、鹿児島大学がどのように貢献しているかを知りつつ、自分だけでなく、地域住民の健康維持という課題について『医療』クラスで考えてみませんか。

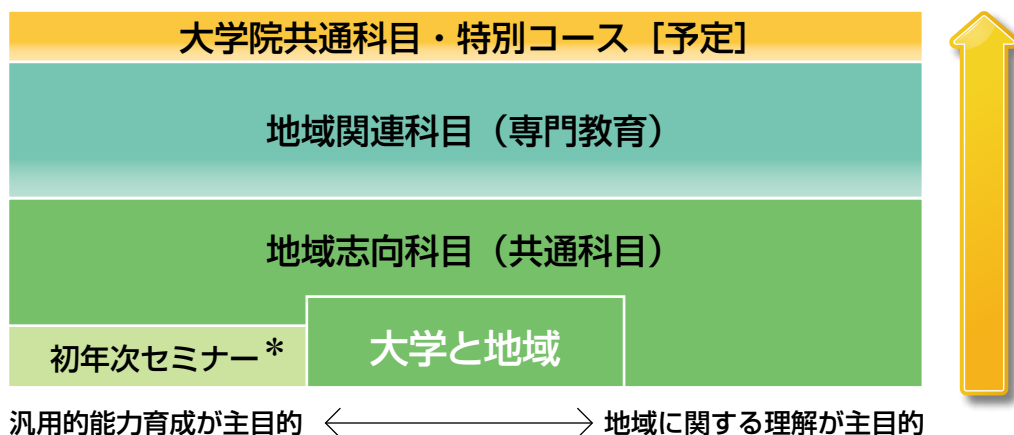


「かごしま地域教育プログラム」のご案内

鹿児島大学において、地域に貢献していきたいとの思いを涵養するため、鹿児島地域に対する理解を深めつつ、地域社会が抱える諸課題を発見・解決する力を身に付けることのできる一貫した学習を可能にするために編成されたのがかごしま地域教育プログラムです。これは、共通教育としての「地域志向科目」と専門教育（学部教育）としての「地域関連科目」から構成されており、学生はそれぞれの専門性を活かしつつ地域について学ぶことができます（将来的には大学院においても地域を学ぶことができるようプログラムを発展させていく予定です）。

「大学と地域」は全学必修科目であると同時に、このプログラムの起点かつ基盤となる科目です。鹿児島における地域活性化の拠点（Center of Community=COC）である本学では、全ての学生が一定程度地域社会の抱える課題について考え、その解決方法について模索する機会を持つ必要があると考えます。それは、地域に対する理解を深めることであると同時に、地域社会を足場としつつ自らのキャリアを築くための道しるべを獲得することでもあります。

かごしま地域教育プログラム 全体像



*初年次セミナーは汎用的な能力の育成を目的とする全学必修科目です。
地域志向科目ではありませんが本プログラムにとって重要な科目です。

地域社会に関する知識だけを増やしても、実際に地域に貢献できる人材とはなりえません。諸問題を解決するには、論理的思考力や情報収集・精査・分析能力といった汎用的能力が基盤として欠かせません。そうした認識に基づき、本学が構築するかごしま地域教育プログラムは「知識」と「能力」という2つの要素を取り込んだ形で構築されています。

幅広い視野で地域社会が抱える諸問題を見つつ、その上で専門性を活かして解決策を考えるには、共通教育だけでも専門教育だけでも不十分であり、両者を往還的に学習していくことが必要です。共通教育は必ずしも専門教育に先行する低年次を対象とした学習の場ではありません。専門性を高めたうえで共通教育において専門性を異にする学生との間で議論をし、解決策を見出すという学習機会も非常に有意義なものとなります。

問い合わせ先

教育センター (学生部 教務課 共通教育係)

TEL : 099-285-3452 MAIL : kyoutuuk@kuas.kagoshima-u.ac.jp

かごしまCOCセンター (研究国際部 社会連携課 地域連携係)

TEL : 099-285-7104 MAIL : tirenkei@kuas.kagoshima-u.ac.jp

